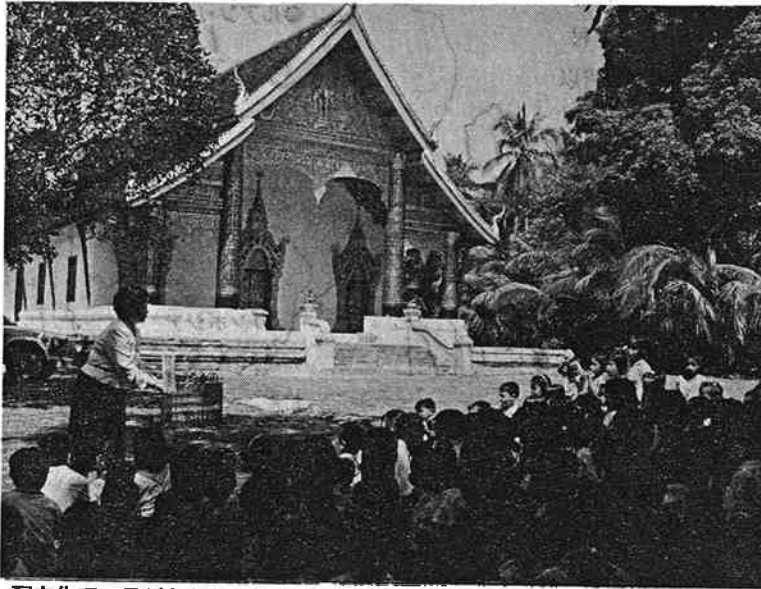


発行:ラオスの子供に絵本を送る会 〒143東京都大田区南馬込6-29-12ミキハウス303 TEL/FAX03(3755)1603

# ラオスの子供に絵本を送る会通信

ASSOCIATION FOR SENDING PICTURE BOOKS TO LAO CHILDREN

創刊号(1993年7月発行)



配布先で、子どもたちに絵本を見せるラオスの国立図書館のダラーさん



## サバイディだより①

# ラオスはお正月! 図書館、配布同行記。

ラオスの子供に絵本を送る会は、活動を「絵本一冊運動」と名づけ、移動図書館運動やラオス語絵本の出版、新聞紙面への子ども向けコラム掲載などのプロジェクトを進めています。

今回は、この4月、会のメンバー2人が配布に同行した、移動図書館運動を紹介します。

### ■全国の小学校に本を配る

移動図書館運動は、ラオスの国立図書館と文化省(日本の文部省にあたる)が中心となって、外国の団体の援助を受けながら、

全国の小学校などに本を配布するプロジェクトです。日本からは、私たちの会と曹洞宗国際ボランティア会がお手伝いしています。

今回、私たちが同行したのは、首都ヴィエンチャンの近郊、北部にある古都のルアン・パバーン郊外の小学校、そして会の仲介で建設されたヴィエンチャン

市内の小学校です。

配布は、まず図書館員の方が村の先生や教育委員会の関係者に図書箱の使用方法を説明します。それとともに、今回同行していただいた曹洞宗国際ボランティア会のラオス駐在スタッフで、私たちとも親しくしている安井清子さんとラオス人の図書館員の方が、子どもたちに絵本の読み聞かせをする、という2本立てで行われました。つまり、大人たちには図書館の機能を理解してもらい、子どもたちには本の楽しさを感じてもらうというやり方です。子どもたちは、図書箱を開くと、素直に好奇心をぶつけ、本を手にとってくれます。私たちにとっても、うれしいひとときです。

#### ■お正月、配布先で焼酎ぜめに遭遇

ヴィエンチャンの近郊は、退役軍人が入植した新しい村などを訪れました。この村は89年に建設がはじまったばかりだそうで、本当に何も無いなあという印象を受けました。ただ、政府から援助があるので、学校の施設は他の地域よりしっかりしていたようでした。

ここで本の読み聞かせ、図書

箱の贈呈式を行いました。

村の代表は、「これまで村には教科書以外の本はありませんでした。しかも教科書さえも不足していました」と語り、図書箱を非常に歓迎してくれました。

村の人たちの関心も高く、「もし子どもが本に飽きたらどうしたらいいのか」などの質問も出て、図書館側が新しい出版物の補充を約束していました。

ルアン・ババーン地区。ここでは1日に3～5か所の村を回り、配布を行いました。ちょうどこの時期はラオスではお正月だったこともあって、どこにいても、40度くらいはありそうな地酒の焼酎ぜめにあってしまいました。あるところでは村中がおとそ気分。本を置いてくるのが少々心配だったりもしました。とはいえ事前に連絡をとるような通信手段があるわけでもなく、仕方のないことでもあり



ます。

ここでも子どもたちに読み聞かせを行い、同時に先生や村長、教育委員の方などには図書館員が図書箱の説明をしました。図書箱の中には、貸出しや本の修理の仕方を書いた説明書も入っています。

今回のこの地区の配布は、県の教育省長のオンチャン氏と義務教育長のカム氏の協力で行われました。カム氏は休みを返上して全箇所同行するという熱の入れようで、子どもたちの教育に真剣に取り組んでいる方が、図書館や文化庁だけでなく、地域にもいるということを知るよい機会でした。

学校の設備や教員は、首都のヴィエンチャン近辺よりも、む

しろルアン・ババーン周辺の方が充実しているような印象を受けました。かつて、この町が王国の都であったことも関係しているのかと思ったりしました。

驚いたのは、電気のきいていない村でも自家発電でテレビをみているところがある、ということでした。電波は入ってこないで、中国などから流れてくるビデオを見ているそうです。でも本のある家はありません(家ということばを“学校”と言い替えても同様の状態です)。印刷物よりも先に映像が進出すると、どんな生活になっていくのでしょうか？

#### ■箱の陰からさそりが...

ルアン・ババーンからヴィエンチャンに戻って、市内のいくつかの小学校を見学しました。すでに図書箱を受け取っている小学校も2校あり、使用状況を見ることができました。

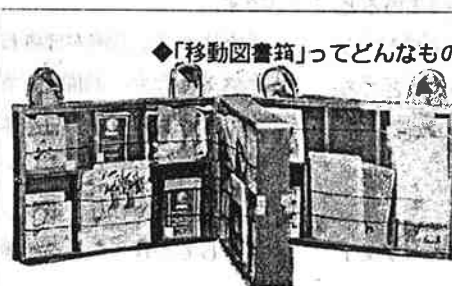
1校は図書箱を2つ持っていました。校長先生に案内されて部屋に通されると、部屋の隅に埃をかぶって、しっかり鍵のかかった箱がありました。それが図書箱でした。おまけに校長先生が動かしたそのとき、箱の陰

から大きなさそりが現れて...

開いてみると本も痛んでいたもので、後日あらためて図書館員に新しい本を配布してもらい、使用法を説明してもらいました。

もう1校はこれとは対照的に、

本はすべて図書箱から出され、部屋に広げてありました。子どもたちは自由に出入りして読むことができるようになっていて、



移動図書箱は、開くと3つのパートにわかれ、本棚としても使えて、中には百数十冊の

本が入ります。頑丈なつくりになっていて、これに本を入れると一人でも持ち上げるには少々しんどいくらいの重さになります。

箱はヴィエンチャンで組み立てられ、本を詰めて、各地に配られます。しかしラオスの道路事情の悪さといったら、それが経済発展の妨げになっているほど。ですから図書箱はつくられたあと実際に使われるまでに時間を要するのが現状で、つくることよりむしろ目的地に届けることのほうが大変な作業ともいえます。

図書箱の中身は、会で出版した本、他の団体が出版した本、教科書、そして貸出し方法などを説明した使用書です。子ども向けのもものが中心ですが、本の少ない地方に持っていくことが多いので大人向けの法律書、農業の技術書なども入っています。

図書箱は、都市では学校に渡されますが、地方の場合は校舎に鍵がかからないことが多いので、先生や村長さんの自宅に預かってもらうことがほとんどのようです。

ラオスでは都市部でも図書室を持てる余裕のある学校はまだ少なく、国土が山がちで幹線道路や鉄道がないため、地方に本を届けることはなかなか困難です。こうした現実にありながらも、私たちは少しでも多くの子どもたちに本に触れて欲しいと考えています。移動図書箱はそのための有効な手段といえます。

実際、非常によく利用されていました。車で何十分と離れていない地域のなかで、どうしてこれほど差が出るのか不思議です。

先生たちは自分たちで説明書を読み、貸出しを行っているとのことでした。今後、どういふ本が必要なのかを尋ねたところ、「子ども向けの英語の教材が欲しい」という意見でした。

私たちは、子どもたちが文字

から離れないよう、読み物絵本の作成を考えていますが、教師の側としては子どもの読み物より、実用的な教材の不足の方が緊急の問題だと感じているようです。

全体として、配布は概ね順調に終えましたが、訪問先で先生が不在であったり、前述のような宴会の最中であったりということもありました。しかし、電話をしてこれから行くことと連絡が

できるわけではありません。日本のように予定通りに計画を進めるのがいかに大変か、ということを実感した現地調査でした。

#### ●サバイディだより●

サバイディとは、ラオス語で「こんにちは」のこと。サバイディだよりは、ラオス現地からの報告を掲載していきます。

### 配布の道中に見た風景。車にゆられながら思ったこと——。

この3、4年でソ連は消滅してしまい、ドイツは一つになった。カンボジアは危ういとはいえ和平が成立。その前までは考えられない、起こりそうもないことが、次々と現実になっていく。

ラオス——。この小さな国の人々の日常生活にもその変化の波は、目に見えるかたちで、現れている。市場に並んでいたソ連・東欧製品がカラフルなタイの製品に取って変わられた。今まで見たことがなかった貸しビデオの看板。街はどんどん変化している。

ただ、街を一步でも出れば、水田が広がり、昔ながらの木造家屋が建ち並ぶ田園風景が展開している。

そんななか、郊外で車を走らせていると、ぼつりぼつりと続く家々にまじって、トタン屋根にブロック塀、という建物が建っているのが見える。たいてい、それは学校だ。いくつか中をのぞく機会があったが、小さな窓からの光は少なく、電気がなくて本が読めるのか？(街はともかく、その他の地域は電化があまり進んでいない)という程度の明るさしかなかった。それに

#### 木口 由香

トタン屋根、日中はさぞ暑いだろうと思う。

その横に、もうひとつ校舎が建っていた。教室が足りない分を村の人たちが建て増したのだという。こちらは、壁は竹を編んでつくられ、屋根は椰子の葉で葺かれていた。トタンに比べて、雨が降ったときは少し困るかもしれない。しかし、こちらの方が明るいうえに、風通しもいい。

後で聞いた話によれば、学校建設用として、ブロックとトタンに対しての援助が行われているという。そのせいばかりでは

ないだろうが、新しく建てられる小学校は、トタン屋根づくりのところが多い。援助をする側によって援助するモノが指定されるとすれば、それが善意で行われるにせよ、受ける側に思わぬ強制をしてしまうことになりかねないのでは....と改めて援助の難しさを考えさせられた。「学校づくりで、大切なのは中身であって、形ではない」という言い方は、あるいはモノの溢れる日本から見た驕りかも知れ

ない。しかし、トタン屋根が破けてしまった場合、多分、現金収入の少ない村の人には修理ができず、次の援助を首を長くして待つことになるのではないだろうか....

振り返って、会の活動を考えてみると、同じようなことがいえるように思う。私たちは、日常、あまりに普通に本を手を取っている。だから本を読んだことがないということが想像できないのだ。今回、配布に同行し

て、あまり積極的に活用されていないところを訪れたときは、ショックだった。しかし本を受け取った方してみれば、青天の霹靂、とまではいかなくても、例えば、一度もパソコンを触ったことのない人が、一言の説明もなくマニュアルだけ渡されたようなものだと考えなくてはいけないのだと思う。どう活用してもらおうかまで、一步踏み込んで考えていかなければ、と思う。

#### ■ 絵本を送る会の仲間たち ■

子どもたちには、自分の幸せだけでなく、地球人として生きて欲しい

国際ソロプチミスト出雲

島根県は出雲市にある、女性経営者と経営者夫人の集まりである「国際ソロプチミスト出雲」。チャンタソンさんがこちらに講演に呼ばれて、今年で3年目になります。この6月も中学校の生徒約900人に、「アジアの子どもたちの暮らし」について話しました。

生徒からは、「子どもたちに人気のあるスポーツは?」「ファミコンはありますか?」「政治体制は、どうなっていますか?」など、次々と質問が飛び出してきました。また、空き缶のリサイクルなど、「自分ができること」

にも関心を向けていました。

ソロプチミストのみなさんには、「子どもたちに外国に目を

向けて欲しい」

「自分の幸せだけでなく、地球人として生きて欲しい」との思いがあります。

絵本を送る会に対しても、「お金の寄付だけではなくて、もっと、みんなに広めていくためのお手伝いをして

いきたい」と、講演会など、さまざまな応援をしてくださっています。

ニュースレターは、みなさんと作っていきま  
す誌面の中身も、編集作業も、会を支えてくださ  
るみなさんといっしょに作っていただけるニューズ  
レターをめざしています。

企画会議/取材同行/ワープロ入力/発送作業  
など、制作に参加を希望する方はご連絡くださ  
い。また、グラフィック・デザイナー、イラスト  
レーターの方、すてきな誌面づくりのために  
力をお貸しください。

ニュースレターを読んだ感想などもお寄せくだ  
さい。

## +++発行にあたって+++

会のなかで今、「ラオスの子供に絵本を送る会」という名前について、こんな議論がおきています。現在、活動の中心は「絵本を送る」ことではないから名称変更を検討しては？ という意見が一方で出て、これに対して、いや、なかなか味のある名前だから、変えるのはもったいない。この名前だから世の中の人たちが会に関心をもってくれるんだと思う、というもう一方の意見が出ています。

つきつめていくと、この議論は、日本に暮らしている私たちが東南アジアの人々に何をしようとしているのか、そして会は日本人の人々に何を呼びかけるのかに行き当たります。あるいは会の中の議論に留まることなく、広く日本人のアジア観を見直す作業であったり、自分たちのライフスタイルを見つめ、「日本の国際貢献」の中身を考えていくような大き

な問題を提起しているようにも思えます。

ニューズレターは、こんな問題意識とともにスタートします。とはいえ、肩ひじをはるつもりはまるではありません。「ラオス」「子ども」「絵本」「送る」について追いかけてながら、道草をくったり、ときには脱線あり、飛び入り大歓迎と、編集方針はとっても柔軟にしていきたいと思っています。このニューズレターが、会を支援して下さるみなさんや、さらには日本、アジアの人々といっしょに考えていくきっかけになればと考えています。

さて、「ラオスの子供に絵本を送る会」という名前。私なりに読みかえますと、「絵本を送る」とは、「絵本がもっているセンスで信号を送り合う」という意味に思えます。絵本がもっているセンス？ それ何？ と思ひの方、次号以降で掘り下げていきたいと思ひますので、どうぞご愛読ください。

編集チーフ 森 透

## 会の活動に参加、お手伝いをしてくださる方をお待ちしています。

■ラオスの子供に絵本を送る会では、みなさまのご支援をいただき、「絵本一冊運動」をより広範に進めています。ところが、活動スタッフは慢性的に不足しています。活動に参加して下さる方、作業を手伝っていただける方を募集しています。ラオス、東南アジアに興味のある方、絵本、子どもの教育に関心を持っている方、事務作業の得意な方、特技はないけれど手伝いたいという方、ミーティングをのぞいてみたい方、ご連絡をお待ちしています。

月例ミーティング：第2日曜日 午後1時より

「ラオスの子供に絵本を送る会」事務所にて(都営地下鉄浅草線・西馬込駅下車 徒歩5分)

■私たちの活動を資金面から支えてくださる方は、郵便振替にて、下記までご送金ください。

【東京 0-125420 ラオスの子供に絵本を送る会】